



ロータリーは
分かちあいの心

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com



■07-08年度 RI会長
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

名古屋名南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30
■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル
■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号
名古屋マリオットアソシアホテル2202号
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054
■会長/大隅 紀郎 ■幹事/杉山 隆秀 ■会報委員長/西村 己恵子

第 809 回

2008年3月18日(火) 晴 第33回

～識字率向上月間～

～世界ローターアクト週間(3/13を含む1週間)～

斉唱 我等の生業
出席 会員 73 名 (出席率算入人数 70 名)
出席 48 名 出席率 68.57%
前々回補填率 95.77% (3月4日分)
ビジター 名古屋名北 RC 早川 恵子さん

◆会長あいさつ◆

会長 大隅 紀郎さん

先週から今週 1 週間の一番の話題
といえば為替でございます。「100 円
を切ることはないでしょう」と言っ
ていたのですが、とうとう 95 円台
までいってしまいました。わが家も
大損失でございます。幸い商品のほ
うが、鉄も含め、ニッケルにいたっ
ては 2 万ドルを超えて青天井とい
う非常にまだ分からない状態が続
いておりますので、一方がだめなら
一方がいいという現状かと思いま
す。



当クラブにも証券会社にお勤めのかた
がおいでになりますけれども、株も
正直言いまして 1 万円切るとか切ら
ないとか、そういう話がちらほら出
てきているようでございまして、
非常に頭を痛めております。

今日は特に大きな話題もございませ
んで、皆様、ゆったりとお過ごし
いただけたらいいと思います。また、
今日は名北 RC の早川さん、ようこそ
お越しくださいました。のんびり
したクラブでございますので、お時
間の許す限り、ごゆっくりご歓談
いただければ幸いです。

◆幹事報告◆

幹事 杉山 隆秀さん

1. 出席袋の中に去年 11 月に行われた地区大会の記録誌が入っております。登録者のかたは入っておりますので、お目通しください。
2. 3月25日は2RC合同例会です。名鉄ニューグランドホテルにおいて、6時開始となっておりますので、お間違いのないようお願いいたします。
3. メナード美術館より招待券が5枚、割引券が30枚きておりますので、ご希望のかたは事務局のほうまでお申し出ください。

◆ニコボックス◆

*鈴木さん、結婚式にお招きにありがとうございます

いました。

杉山 隆秀さん 太田 敦士さん 武藤 正行さん
川村 繁生さん 山本 誠一さん 水谷 誠さん
大隅 紀郎さん 東山 直史さん 久米 伸治さん
江村 雅夫さん 杉本 勇さん 小野 雅之さん
三浦 和人さん

*先日は息子の結婚披露宴に多数の方に出席頂きまして
ありがとうございました。 鈴木 享さん

*春らしくなってきました。

林 隆二さん 平沼 里子さん 山崎 淳さん
犬飼りさ枝さん 新原 尚さん 田中 一雄さん
細井 俊男さん 田中 省三さん 久米 伸治さん
森田敏二三さん 三浦 隆さん 本多 利郎さん
加藤 宜之さん 黒田 康正さん

*結婚、35周年を記念して、ニコBOXへ。

小山 慎介さん

本日合計 41,000 円 累計 1,618,000 円

◆委員会報告◆

●社会奉仕委員会 委員長 田中 省三さん

今年度新規事業といたしまして「社団法人被害者サポートセンターあいち」への支援を市内23RC合同にて行いました。ここに感謝状がきておりますのでご報告させていただきます。



「名古屋名南 RC 殿。貴クラブは被害者支援活動に深くご理解をいただき、当センターに記念誌「10年の歩み」をご寄贈くださいました。これは設立10周年記念事業を推進するところまことに大であります。ここに深く感謝の意を表します。平成20年2月16日、社団法人被害者サポートセンターあいち会長高橋治朗」

◆クラブフォーラム◆

●新世代委員長会議報告

平野鶏奈子さん

第16回ライラセミナーのご報告をいたします。開催日は2月23、24日、主催は、ホストクラブの名古屋東山RC、そのほか国際ロータリー第2760地区ライラ委員会とライラセミナー実行委員会のかたがたです。場所は愛知県労働者研究センター・サンパレア瀬戸で

第811回例会(4月1日)のご案内

会長エレクト研修セミナー (PETS) 報告
会長エレクト 川辺 清次さん

す。定光寺の近くにあります。そのとき、瑞穂高校の平岡幸さんと同行いたしましたの出席でした。

開講式には、ホストクラブ奥村会長が声高らかに2日間のテーマ「自立」をよく学んでいただいたとの言葉で始まりました。それからお話をお聞きして、一つ、自分の人生は自分で作る、一つ、人の意見を真剣に聞く、一つ、聞く耳を持つことがまず自立の第一歩、などが開講式での自立に関するお話の内容でした。

午後3時30分から第2回クラブ新世代委員長会議がありました。地区インターアクト委員長加藤明宏さんより、メンバー増強、海外派遣、研修等々、今後とも一層の新世代に対するご協力・ご理解をいただきたい、これだけは各クラブに帰って皆様にお伝えください、とのお願いがありました。

私はおかげさまで、ライラセミナーには幸運にも今回で6回目の出席でした。定光寺近くに会場があり、部屋作りがこのセミナーにはちょうどよく、また、見渡す窓からの景色も大きく、特に緑が美しく、気分もよく、心豊かに過ごせるところだと思いました。以上、簡単ですがご報告いたします。



◆ロータリー・ワールド◆

●ポリオの根絶に向けてロータリーとゲイツ財団が2億米ドルを投入

国際ロータリーは、ポリオ撲滅の世界的活動に必要とされる2億米ドルを投入すべく、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と協力することを発表しました。

ロータリー財団は、今後3年間に同額を調達することを条件に、ゲイツ財団から1億ドルの補助金を受け取りました。ロータリーは、世界ポリオ撲滅推進計画



2002年11月、インドのアンドラプラデシ州にある地域社会クリニックで経口ポリオワクチンを乳児に投与するビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の共同創立者、ビル・ゲイツ氏

における予防接種活動を直接支援するために、今後1年以内に、最初の1億ドルを投入していく予定です。世界ポリオ撲滅推進計画とは、世界保健機関（WHO）、国際ロータリー、米国疾病対策センター、ユニセフが協同して主導する活動です。

「ポリオ撲滅があと一歩というところまで前進できた背景には、ロータリー会員の並々ならぬ尽力があり、これが極めて重要な役割を果たしました」と、ゲイツ財団のビル・ゲイツ氏は述べます。「ポリオの撲滅は、公共保健の分野において歴史上最も重要な偉業となるでしょう。この目標を果たすために、私たちは全力を投入しています」

11月に発表されたこのポリオ撲滅への補助金は、同額の組み合わせを求めるゲイツ財団からの補助金としては、これまでで最大のもので、創設以来102年の歴史においてロータリーが受領した最も高額な補助金でもあります。ロータリーはこの資金を、WHOとユニセフへの補助金を通じて支給します。

「世界中のロータリアンたちは、ここまで来るために懸命に活動してきました。ですから、私たちの今までの活動が、このような特別な形でビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から認められたことは、大きな報いです」とロバート・スコット・ロータリー財団管理委員長は言います。「この共同での取り組みが、ほかの財団や各国政府、非政府組織

をはじめとするほかの寄付者に対しても、ポリオの根絶に必要なリソースを確保するために立ち上がるよう、奮起を促すものとなることを願っています」

1985年以来、ロータリーはポリオの撲滅を最優先項目とし、この活動に6億3,300万ドルを寄付してきました。世界ポリオ撲滅推進計画は、過去20年間にポリオの感染者数を99%も減らしたものの、野生型ポリオウィルスは、現在もアフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの4カ国に根強く残っています。

「今回の協力は歴史に残る出来事であり、かつては1日に何千人という人々を麻痺に陥れていたこの病の撲滅に、世界ポリオ撲滅推進計画を通じてロータリーが力を貸すことのできる絶好の機会です」と言うのは、ウィルフリッド・ウィルキンソンRI会長です。「ロータリアンである私たちは、この申し出に応え、撲滅の仕事を完遂するためにできる限りのことをするものと、私は確信しています」

詳細はwww.rotary.orgをご覧ください。

●会長のメッセージ

今こそポリオを永久に葬らねばならないとき

皆さんの多くがご存知のように、ポリオ撲滅活動は今、正念場を迎えています。20年近くに及んで世界各国のロータリアンが絶大なる支援とひとかたならぬ献身を示してきた結果、ポリオ感染の症例は99パーセント激減し、ポリオ常在国の数は残すところわずか4カ国となりました。ポリオによる麻痺患者の数も、年間350,000以上だったのが約1,000まで減少しました。私たちがこれまでに成し遂げてきたことはまさに驚異的であり、ゴールを目前にした今、歩みを緩めるわけにはいきません。

しかし今、私たちは最大の難関に直面しています。長すぎるポリオとの闘いに疲れ、諦めかけている人々に、今一度、力を振り絞ってこの活動を後押ししてもらえよう、どのように彼らの熱意を呼び覚ますことができるかという課題です。残された仕事は明確に定義されているものの、この重大な局面にあつて、その仕事を完遂するためのリソースが不足しているのです。

今、私たちに残された仕事は、依然としてポリオウィルスの潜むアフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの小域に的を絞り、集中的な最終活動に取り組むことですが、これが最も困難を極めるものとされています。これら最後のポリオ常在4カ国が恐るべき難題とされるのには、さまざまな理由が挙げられます。高出生率、衛生状態のばらつき、その他の要因により、現在までのところ、子供たちへの徹底した予防接種活動が妨げられてきました。

ロータリーの世界的な協力団体は、これらの地域においてポリオを抹消すると同時に、新しい感染の症例が確認されている地域を厳重に監視すべく、活動にあたっています。今日、これまでの2倍の効果を発揮するワクチンが使用され、ポリオウィルスの発見と追跡もこれまで要した時間の半分という診断方法が採用されています。監視活動とポリオ発生時の対応も、また、非常に高度なレベルに達しており、世界的な保健団体が一体となり、全力投球を行っています。

この献身的な活動を支え、子供たちを守り、約束を果たすことは、私たちの責務です。そのためには、このポリオ撲滅キャンペーンの最終段階を通じて、残された仕事をやり遂げるために必要とされるリソースが調達できるよう、支援してまいりましょう。

